

7月に入りました。本格的な夏を迎えようとしています。
先月始まったサッカーワールドカップが佳境に入りました。
日本代表チームも感動ゲームを見せてくれました！

<7日 小暑,七夕, 19日 海の日, 23日 大暑, 26日 土用の丑 >

1. July ご案内・改正情報



① 算定基礎届(定時決定)は、7月12日が提出期限です。

4月—6月(支払ベースで見ます)の3か月の給与平均額の算定基礎の結果、9月(保険料変更は、通常翌月支払い給与から)に改定されます。また、固定的賃金の変動が4月にあり、標準報酬2等級以上差がある場合には7月改定(7月月額変更届)となります(固定的賃金がアップしたが、標準報酬はダウンの場合は該当しない、その逆も)。

② 賞与の時期となり、支給後「賞与支払届」を出します。予定月が年金事務所に登録されており、予定月に支給しない場合「不支給」として書類を提出しなければなりません。月々の給与と同じ料率ですが、注意点は以下の通りです。(支給額の1000円未満切捨て)

① 賞与の保険料計算の対象支給額の上限・・・厚生年金保険は150万円ですが、健康保険は、年度の累計額で540万円が上限となっています。本人からは、健康保険 46.65/1000(愛知県)、介護保険 7.5/1000、厚生年金保険 78.52/1000

② 雇用保険も月々給与と同様 本人からは6/1000(建設業 7/1000)・・・昨年と変わっていますのでご注意ください！

③ 先月の給与計算時に特別徴収する住民税の変更はスムーズでしたでしょうか。給与ソフト利用では7月以降の額が入力されていれば今月以降、額の変更は来年5月までは不要ですが、たまに8月以降で変わる方も中には居ますのでご注意ください。

2. 名言名句

「人の喜びをわが心の喜びとせよ。これは人間だけが持つことのできる尊い心だ。

その尊い心をちょっと出してみよ。なによりも尊い楽しさを味わうことができるのだ。」

(中村天風)

3. 改正等情報ワンポイント

「子ども手当」の支給が始まっていますが、民主党の迷走？もあり今後の動向が注目されます。その「子ども手当」と引き換えに？平成23年の所得税関係での改正が決まっています。

年齢16歳未満の親族に係る扶養控除が廃止されます。また、年齢16歳以上19歳未満の親族に係る扶養控除額が、従来の63万円(特定扶養親族)から38万円(一般扶養親族)に引き下げられます。さらに控除対象配偶者や扶養親族が同居特別障害者に該当する場合の配偶者控除額、扶養控除額の加算措置(35万円)について、障害者控除の額への加算措置(35万円)に改められます。これに伴って、給与・賞与から控除する源泉所得税の計算の際の「扶養親族等の数」の算定方法が変わることになります。平成23年1月以降に支給する給与、賞与の源泉徴収税額の計算における扶養親族等の数から適用されることになります。

★ interest

サッカーワールドカップの大会前のイングランドとの親善試合を偶然に見て、“代役ゴールキーパーだった川島選手”のプレーが素晴らしかったので、大会では是非先発すべきと思ったら、岡田監督が彼を起用したのでコレは行ける！と思いました。サッカーの試合で初めて「守備の素晴らしさ」に感動しました。攻撃も大事ですが、これほど「スカッとする堅固な守備（変な表現ですが）」は無い！と思いました。日本の1次リーグ突破の原動力となりました。

そして「無回転フリーキックで世界をアッとさせた本田選手！」大喝采です、彼はチームを救いました。超プラス思考というような、その積極性は今までの日本選手とは違う！と感じました。オランダの2部リーグでキャプテンを務め、そのチームを1部に引き上げたMVPに輝いた実績は大したもの。英語で外国人選手とコミュニケーションをとり、キャプテンとしても絶大の信頼を得ていたというから凄い。現在はロシアのチームでも通訳なしで頑張っていますが、どうやら近いうちに更に上のリーグに移籍しそうです。新聞に出ていましたが、ビッグマウス（大きいことを言う）でも、人の悪口は一切言わないそうで



彼のインタビューの受け答え、惹き付ける魅力があり、「気持ちが良い」です。インタビューといえば、男子プロゴルフ界のヒーロー「石川遼」も実に気持ちイイ。この二人、実にカッコイイ若武者だ(S) ←無回転を生み出した「ミズノが本田選手を研究して開発した」のシューズ、本田選手の場合、左右の大きさが違うとの事です！



4. データ・情報

- ① 5月の完全失業率は、5.2%（前月比0.1ポイント上昇）と3カ月連続で悪化したことがわかった。同月の有効求人倍率は0.50倍（前月比0.2ポイント増）で、2カ月ぶりに改善した。
- ② 日本生産性本部などは2010年度の新入社員を対象に実施した「働くことの意識」調査結果を発表した。「第一志望に入社できた」との回答が昨年の62.3%から55.2%に下がり、就職活動の厳しさがうかがえる結果となった。「デートか残業か」では「残業」85.3%が「デート」14.2%を大きく上回り、過去最高の開きとなった。（6月28日）
- ③ 新生フィナンシャルは、全国の男性サラリーマン1,000名を対象に実施した「小遣い調査」の結果を発表した。2010年の平均小遣い額は前年比5,000円のダウンの4万600円になり、3年連続で減少した。この1年間の昇給については「なし」と回答した人が56.8%だった。（6月8日）
- ④ 厚生労働省が発表した「人口動態統計」月報年計によると、2009年の合計特殊出生率（女性が生涯に産む子どもの数）は前年と同水準の1.37となり、06年から続いていた上昇がストップした。出生数は107万25人（前年比2万1,131人減）、死亡数は114万1,920人（同487人減）。出生数と死亡数の差である「自然増加数」は7万1,895人減で、3年連続のマイナスとなった。（6月2日）

5. お知らせ

☆先月中旬より新しいパート職員が入りました。松井美津子と申します。
社会保険・雇用保険・給与計算全般、お任せ下さい。どうぞよろしくお願い致します。

T-HRM Tanaka Human Resources Management

「イクメン」という言葉をご存知の方が増えたな、と感じていたのですが、なんと厚生労働省までが、先月「イクメンプロジェクト」なるものを立ち上げたとなりました。

「イクメン」と似て非なる「イクメン」は、育児をする男（メン）ということです。

「弁当男子」「スウィート男子」など、元来女性の興味の対象である分野に男性が進出してきたことを、象徴的に表現している言葉です。ただし、子育ては趣味や興味の対象であるだけではすみません。男性だって親であることは、生命の誕生のはるか昔から連綿と変わらないことなのに、日本ではようやく、男性が育児をする環境が出現したのですね。

中日新聞の男性記者が育休をとった体験記の中では、子育てそのものより、妻に代わってすることになった家事の大変さが書かれていました。「家事は、次々にやるのが押し寄せてきて、余裕がない。家事に給料は出ないし、周囲から褒められることもない。子育て中のママが抱くという孤独感も味わった」と。そしてなんと、支えてくれたのは子どもでもあり、子育ては感動の連続だったそうです。さて、男性の皆様、感動の子育てを女性にだけさせておくのはいかがお思いですか？女性の皆様、育児をとられちゃう心配がありますか？それとも、喜びを半分ずつにしましょうか？（M）